

阿見町町民意向調査 報告書(概要版)

2026 年 1 月
茨城県 阿見町

目次

I. 町民意向調査の概要	3
(1). 調査目的.....	3
(2). 調査の種類と実施方法	3
(3). 回収状況	3
(4). 集計の見方	3
II. 回答者の属性.....	4
(1). 性別.....	4
(2). 年齢	4
(3). 世帯構成	5
(4). 同居人	5
(5). 居住地区	6
(6). 職業	6
(7). 通勤先	6
III. 回答結果	7
(1). 施策の進捗度評価.....	7
(2). 進捗状況の評価(総合比較).....	15
(3). 優先的に力を入れる取り組み	17
(4). 住みやすさについて	18
(5). 総合評価	21

I. 町民意向調査の概要

(1). 調査目的

- 本調査は、令和 6 年度以降の総合的かつ計画的な町政運営の指針となる「阿見町第 7 次総合計画-前期基本計画-」の進捗状況を確認するために、主に施策に対する「評価」と町政への「意見・提案」を調査し、今後のよりよいまちづくりに活用することを目的とする。

(2). 調査の種類と実施方法

調査の種類	無記名式アンケート
調査対象	阿見町に在住する 18 歳以上のうち、3,000 名を無作為抽出。 (令和 7 年 9 月 1 日時点)
実施方法	調査票は郵送で配布し、返信用封筒による郵送で回収したほか、Web 回答フォームも作成し、そこからの回答も受け付けた。
調査期間	令和 7 年 10 月 3 日～令和 7 年 10 月 31 日

(3). 回収状況

配布数	回収数	回答率
3,000 件	1,316 件(うち web 回答 358 件)	43.9%

- 今回のアンケートは、母集団である阿見町 18 歳以上の人口(住民基本台帳 令和 7 年 9 月 1 日現在)(N)が 42,518 人に対して、サンプル数(n)が 1,316 件である。
- ある設問に対する回答率が 50%(割れる意見)である場合、最も誤差が大きいと考えられることから、p を 0.5 と仮定すると、結果の誤差は $\pm 2.66\%$ 以内である。
- 一般的には、5%程度の誤差に収めることが社会調査上望ましいといわれており、今回の結果は 5%以内に収まっていることから、統計的にも妥当であると考えられる。

N	母集団の大きさ	42,518 人
n	サンプルの大きさ	1,316
p	回答率	0.5
± 1.96	標準化補正值 (95%信頼区間)	1.96
ε	誤差 (ε)	± 2.66

$$\text{誤差}(\varepsilon) = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 100$$

(4). 集計の見方

- 百分率の計算は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%とならないことがある。
- 複数回答(問 3)の場合、設問の回答者数に対する選択肢ごとの割合を表示しているため、合計が 100%を超えている。
- 図表の中の「n」は質問に対する回答者数を表している。
- 順位を付した項目について、それぞれの順位は表示されている桁数以下の微差(小数点第 3 位以下)に基づき決定してる。

Ⅱ. 回答者の属性

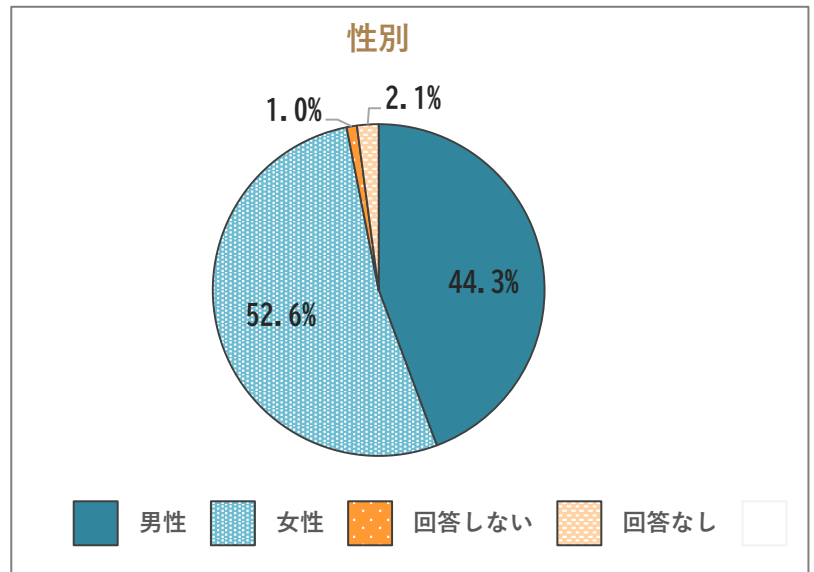
(1). 性別

問 1(1) あなたの性別を教えてください。

- 回答者の性別は「男性」が 44.3%、「女性」が 52.6%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
男性	583	44.3%
女性	692	52.6%
回答しない	13	1.0%
回答なし	28	2.1%



(2). 年齢

問 1(2) あなたの年齢を教えてください。(令和 7 年 9 月 1 日時点の年齢)

- 回答者の年齢は、「50 歳代」が最も多く 19.7%だった。次いで「40 歳代」が 17.2%、「70 歳代」が 15.4%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
19歳以下	22	1.7%
20歳代	97	7.4%
30歳代	181	13.8%
40歳代	227	17.2%
50歳代	259	19.7%
60歳代	197	15.0%
70歳代	203	15.4%
80歳以上	109	8.3%
回答なし	21	1.6%

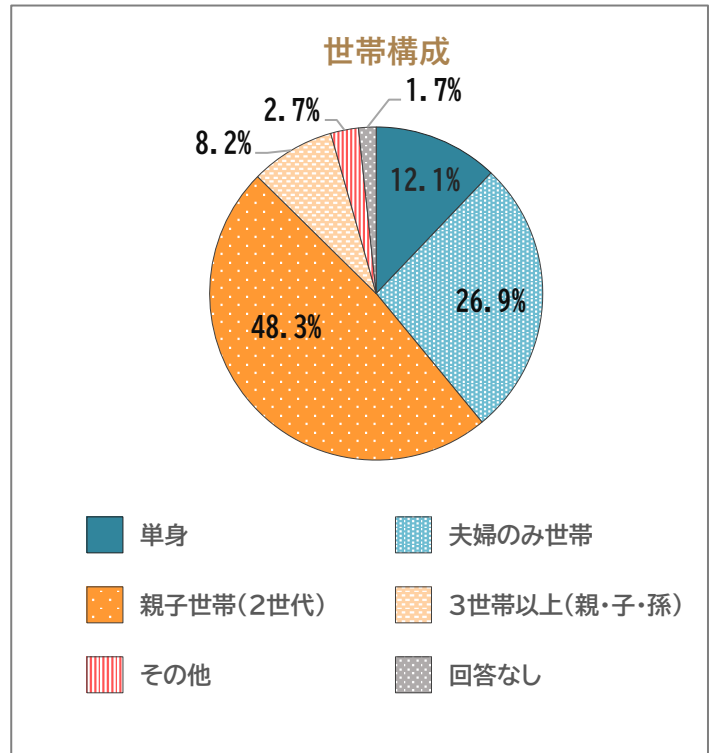
(3). 世帯構成

問 1(3) あなたの世帯構成を教えてください。

- ・ 回答者の世帯構成は「親子世帯(2 世代)」が最も多く 48.3%だった。次いで「夫婦のみ世帯」が 26.9%、「単身」が 12.1%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
単身	159	12.1%
夫婦のみ世帯	354	26.9%
親子世帯(2世代)	636	48.3%
3世帯以上(親・子・孫)	108	8.2%
その他	36	2.7%
回答なし	23	1.7%



(4). 同居人

問 1(4) あなたは、以下の方と同居されていますか。(あてはまるものをすべて選ぶ)

- ・ 回答者の同居者は「1～6 にあてはまる同居人なし」が最も多く 37.4%だった。次いで「6.65 歳以上の方」が 30.3%、「2.小学生」が 11.8%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
1.就学前の乳幼児	136	10.3%
2.小学生	155	11.8%
3.中学生	90	6.8%
4.高校生	97	7.4%
5.大学・短大・専門学校生	101	7.7%
6.65歳以上の方	399	30.3%
1～6にあてはまる同居人なし	492	37.4%
回答なし	73	5.5%

(5). 居住地区

問 1(5) あなたがお住まいの地区(小学校区)を教えてください。

(n=1,316)

- 回答者の居住する地区については「阿見小学校区」が最も多く24.1%だった。次いで「本郷小学校区」が20.2%、「あさひ小学校区」が19.8%だった。

	件数	(割合)%
阿見小学校区	317	24.1%
本郷小学校区	266	20.2%
君原小学校区	29	2.2%
舟島小学校区	107	8.1%
阿見第一小学校区	209	15.9%
阿見第二小学校区	94	7.1%
あさひ小学校区	260	19.8%
回答なし	34	2.6%

(6). 職業

問 1(6) あなたの職業を教えてください。

(n=1,316)

- 回答者の職業については「会社員・役員」が最も多く、34.6%だった。次いで「無職」が22.0%、「パート・アルバイト」が13.9%だった。

	件数	(割合)%
会社員・役員	455	34.6%
公務員	74	5.6%
自営業	82	6.2%
学生	37	2.8%
専業主婦(夫)	117	8.9%
パート・アルバイト	183	13.9%
無職	289	22.0%
その他	57	4.3%
回答なし	22	1.7%

(7). 通勤先

問 1(7) あなたの主な通勤・通学先を教えてください。

- 回答者の主な通勤・通学先は「2.近隣市町村(土浦市、つくば市、牛久市、稲敷市、美浦村)」が最も多く29.2%だった。次いで「5.現在、通勤・通学はしていない」が27.7%、「1.阿見町内」が23.4%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
1.阿見町内	308	23.4%
2.近隣市町村(土浦市、つくば市、牛久市、稲敷市、美浦村)	384	29.2%
3.2以外の茨城県内市町村	82	6.2%
4.茨城県外	81	6.2%
5.現在、通勤・通学はしていない	364	27.7%
回答なし	97	7.4%

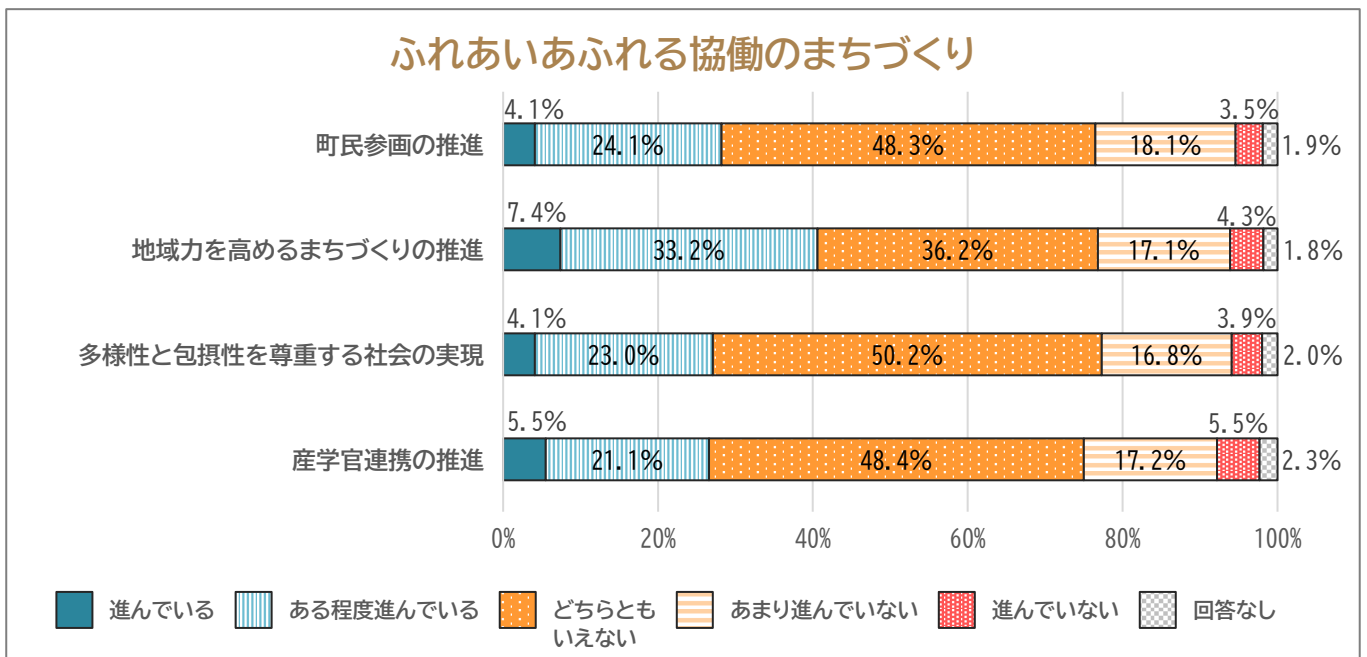
Ⅲ. 回答結果

(1). 施策の進捗度評価

問 2 現在の第7次総合計画において進めてきた主な施策について、どの程度取り組みが進んでいると感じますか。それぞれ最も近いものを、お答えください。

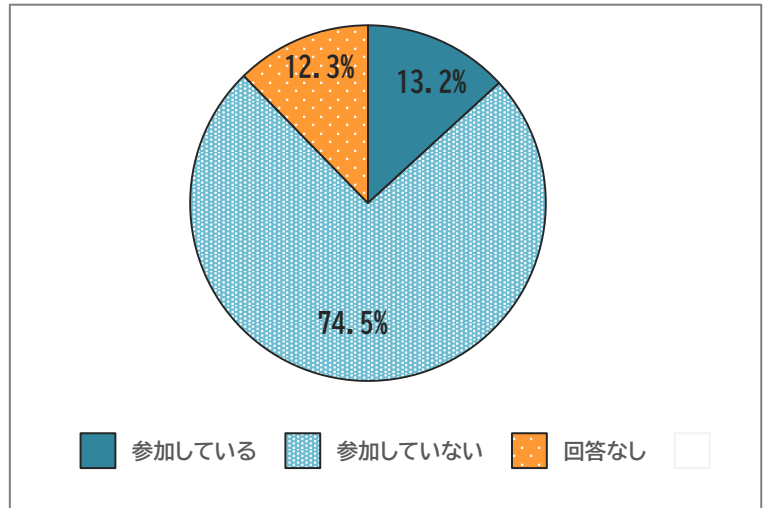
1. ふれあいあふれる協働のまちづくり

- ・「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「地域力を高めるまちづくりの推進」が最も高く40.6%だった。次いで、「町民参画の推進」が28.2%、「多様性と包摂性を尊重する社会の実現」が27.1%だった。
- ・「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「産学官連携の推進」が最も高く22.7%だった。次いで、「町民参画の推進」が21.6%、「地域力を高めるまちづくりの推進」が21.4%だった。



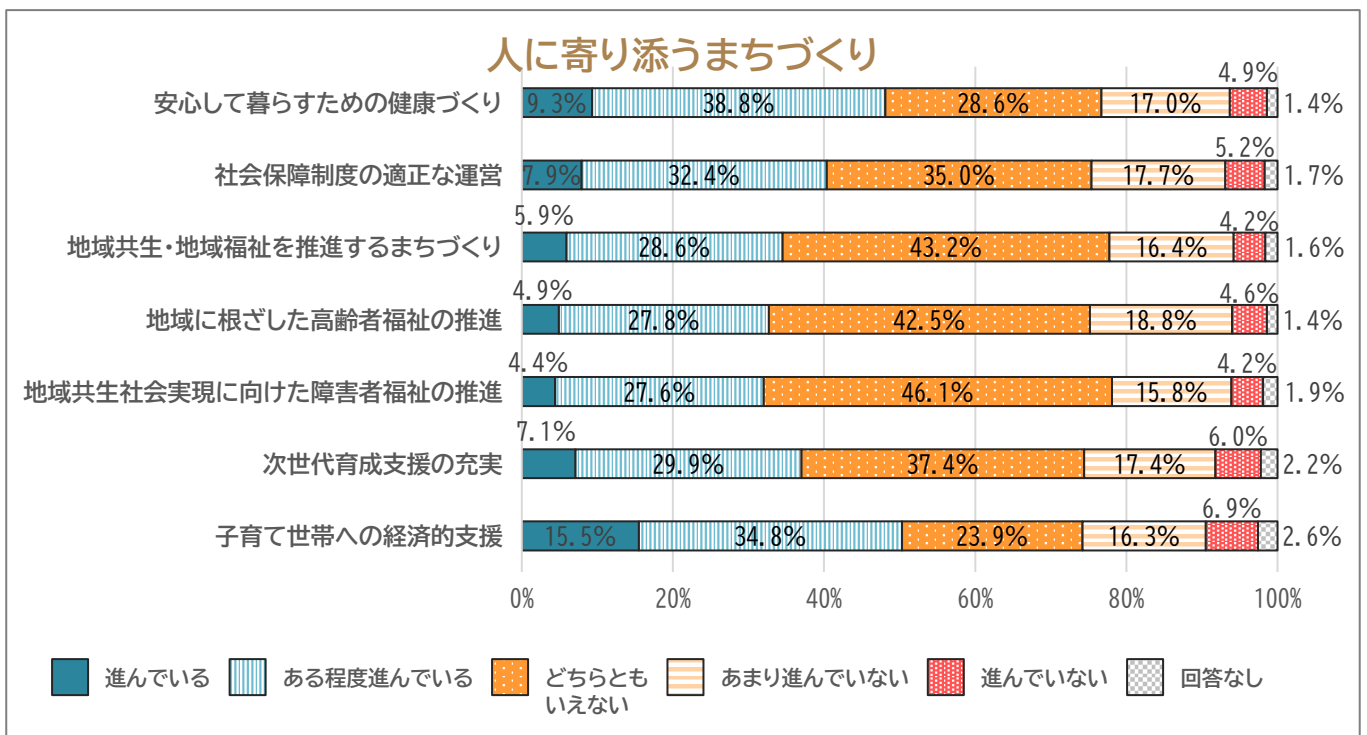
あなたはこれらの地域活動に参加していますか。(どちらかに○)

- ・ 地域活動の参加については、「参加している」が 13.2%、「参加していない」が 74.5%だった。



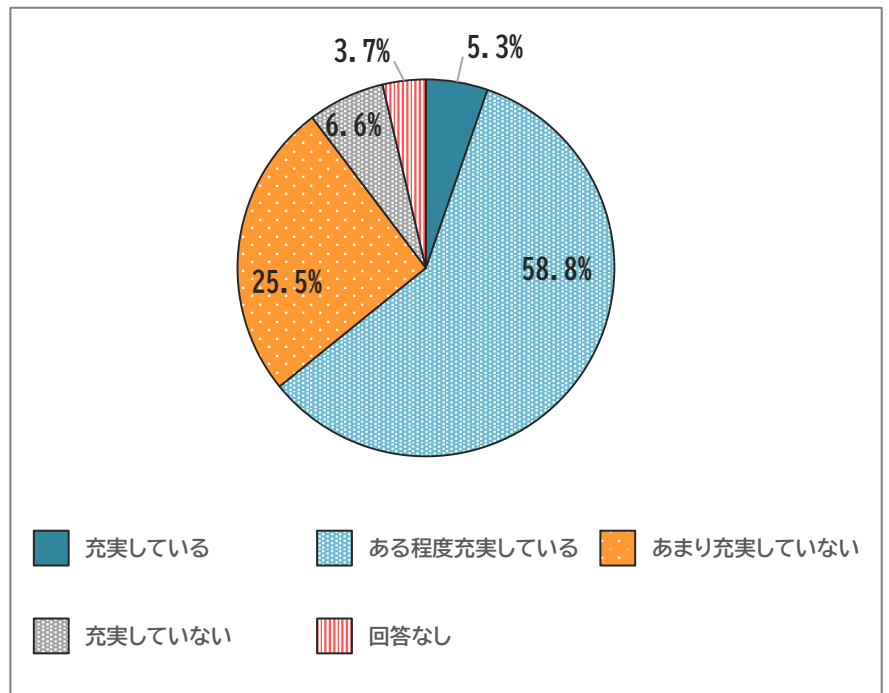
2. 人に寄り添うまちづくり

- ・ 「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「子育て世帯への経済的支援」が最も高く 50.3%だった。次いで、「安心して暮らすための健康づくり」が 48.1%、「社会保障制度の適正な運営」が 40.3%だった。
- ・ 「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「次世代育成支援の充実」と「地域に根ざした高齢者福祉の推進」が同率で最も高く 23.4%だった。次いで、「子育て世帯への経済的支援」が 23.2%だった。



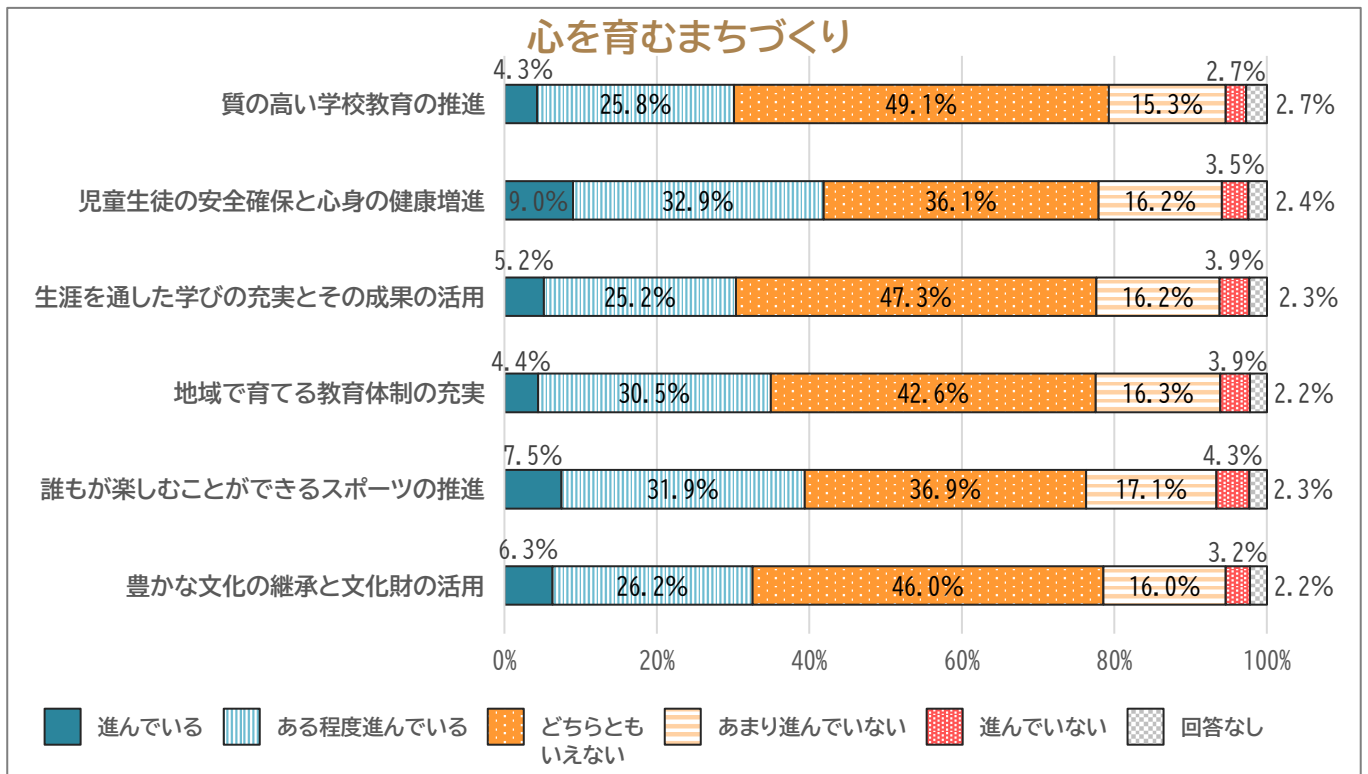
これらの取組を踏まえて、あなたは福祉(子育て・高齢者・障害者)が充実していると感じますか。(1 つに○)

- ・「充実している」と「ある程度充実している」の合計は 64.1% だった。
- ・「充実していない」と「あまり充実していない」の合計は 32.1% だった。



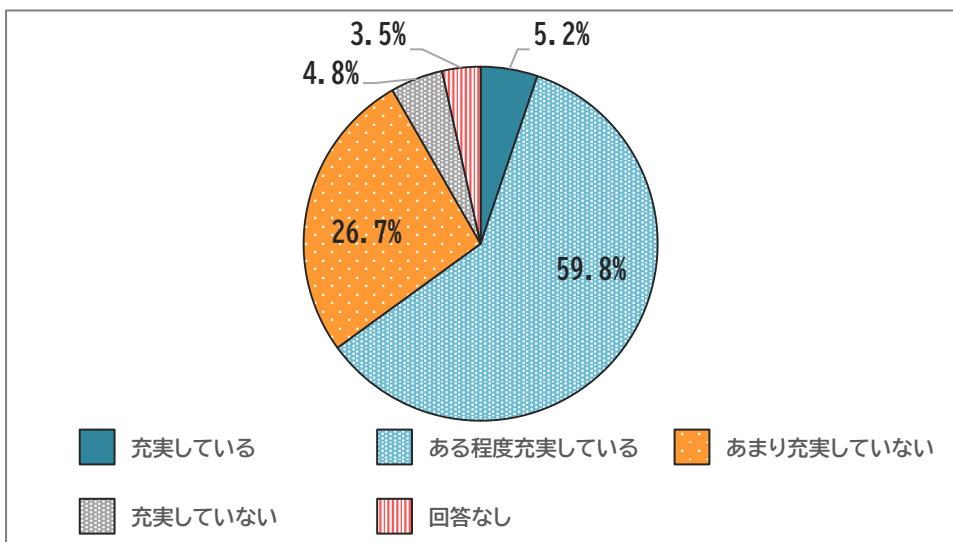
3. 心を育むまちづくり

- ・「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「児童生徒の安全確保と心身の健康増進」が最も高く 41.9%だった。次いで、「誰もが楽しむことができるスポーツの推進」が 39.4%、「地域で育てる教育体制の充実」が 34.9%だった。
- ・「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「誰もが楽しむことができるスポーツの推進」が最も高く 21.4%だった。次いで、「地域で育てる教育体制の充実」が 20.2%、「生涯を通した学びの充実とその成果の活用」が 20.1%だった。



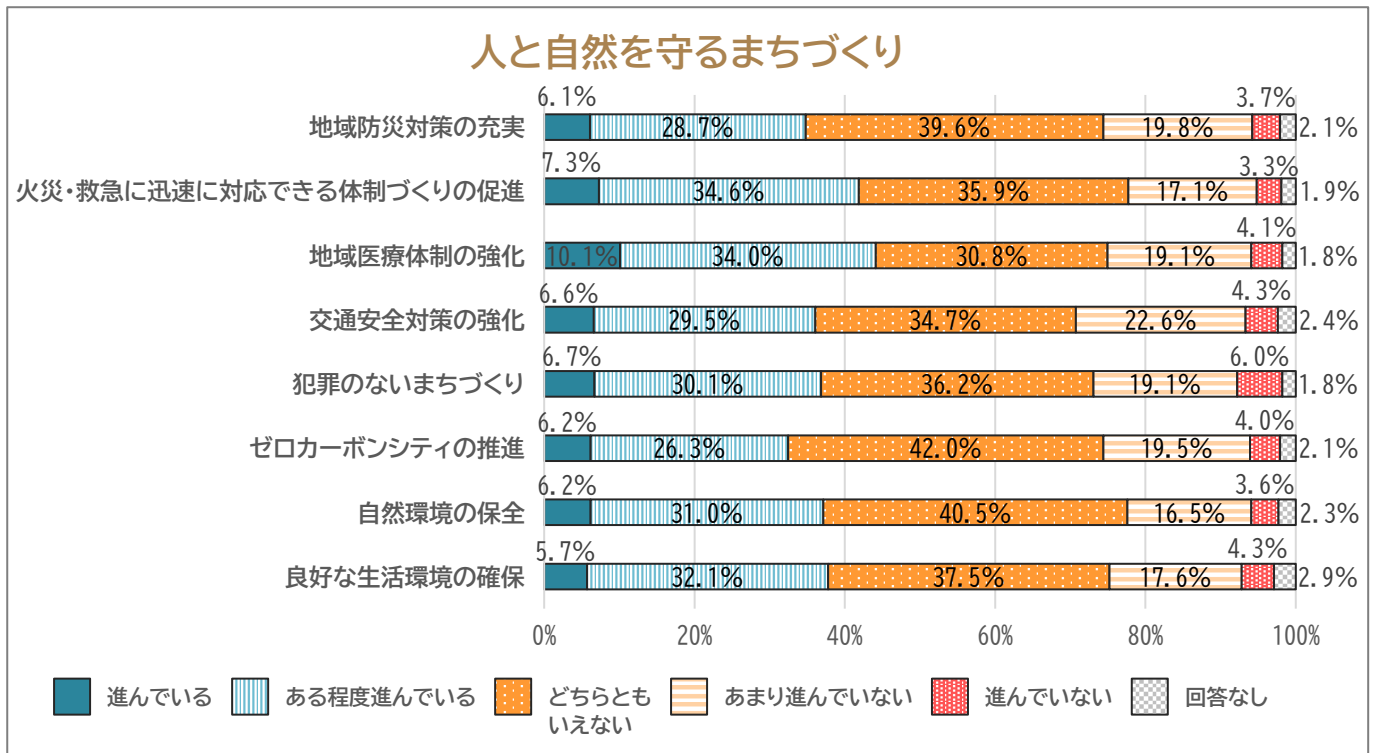
これらの取組を踏まえて、あなたは教育環境が充実していると感じますか。(1 つに○)

- ・「充実している」と「ある程度充実している」の合計は 65.0%だった。
- ・「充実していない」と「あまり充実していない」の合計は 31.5%だった。



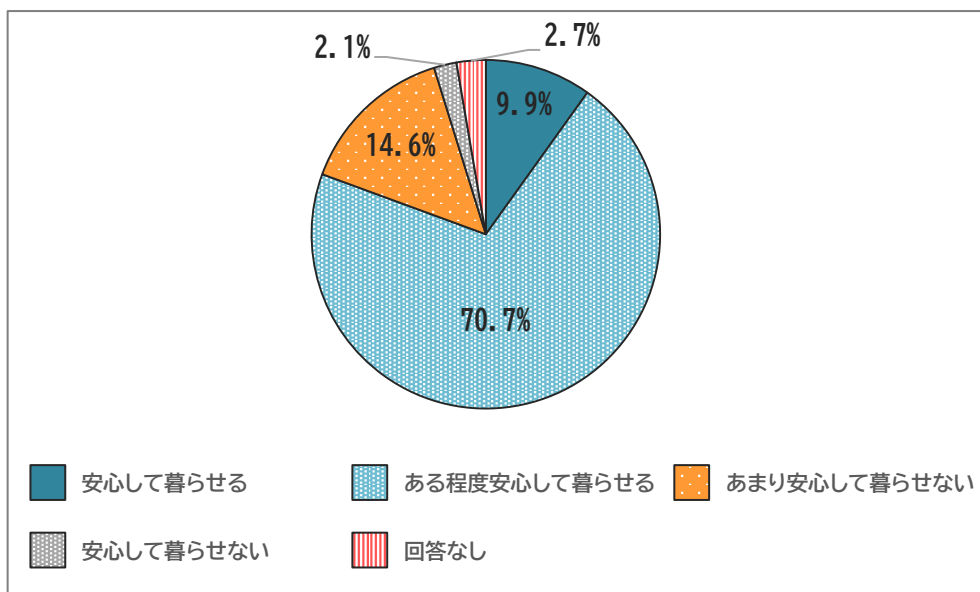
4. 人と自然を守るまちづくり

- ・「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「地域医療体制の強化」が最も高く 44.1%だった。次いで、「火災・救急に迅速に対応できる体制づくりの促進」が 41.9%、「良好な生活環境の確保」が 37.8%だった。
- ・「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「交通安全対策の強化」が最も高く 26.9%だった。次いで、「犯罪のないまちづくり」が 25.1%、「地域防災対策の充実」と「ゼロカーボンシティの推進」が同率で 23.5%だった。



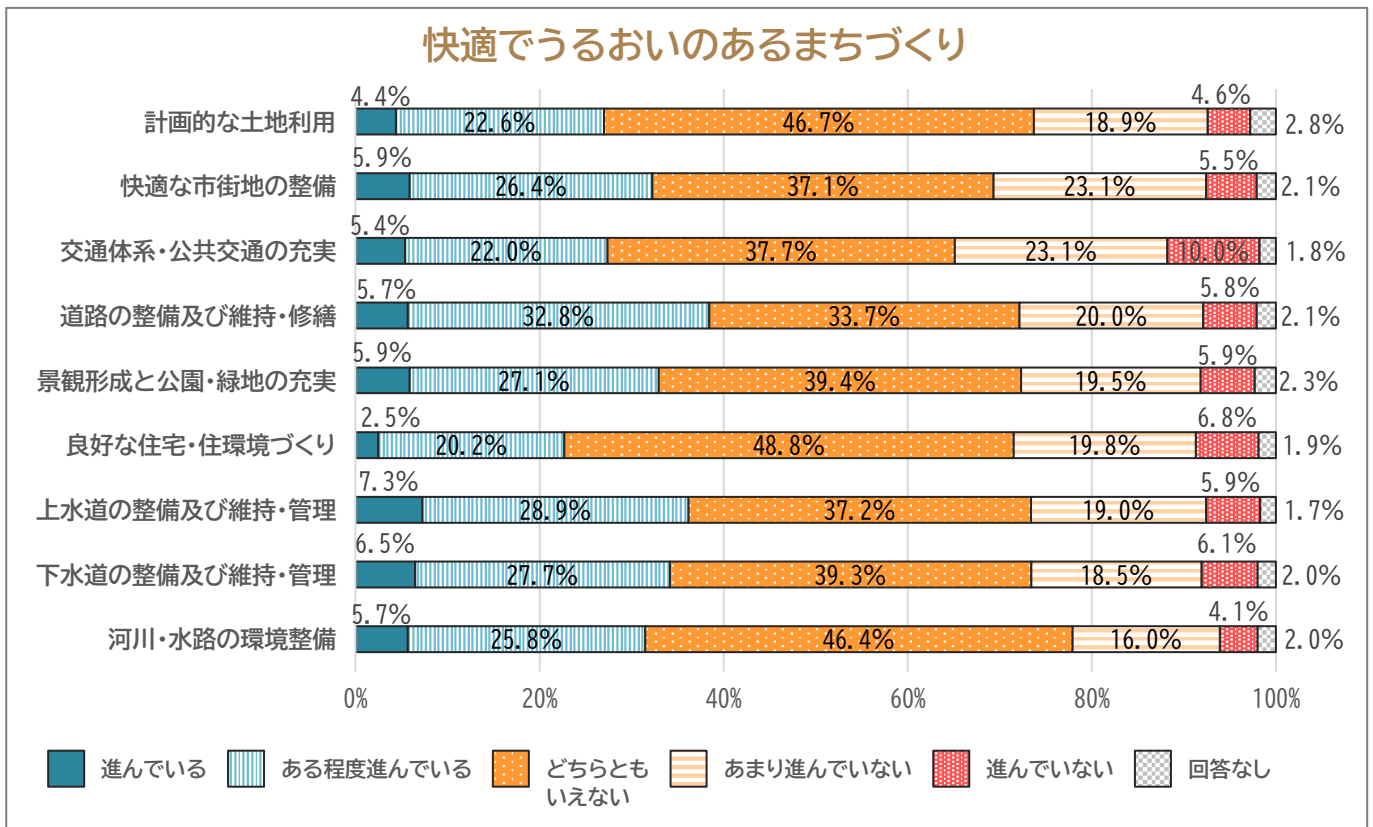
これらの取組を踏まえて、あなたは阿見町で安心して暮らせると感じますか。(1 つに○)

- ・「安心して暮らせる」と「ある程度安心して暮らせる」の合計は 80.6%だった。
- ・「安心して暮らせない」と「あまり安心して暮らせない」の合計は 16.7%だった。



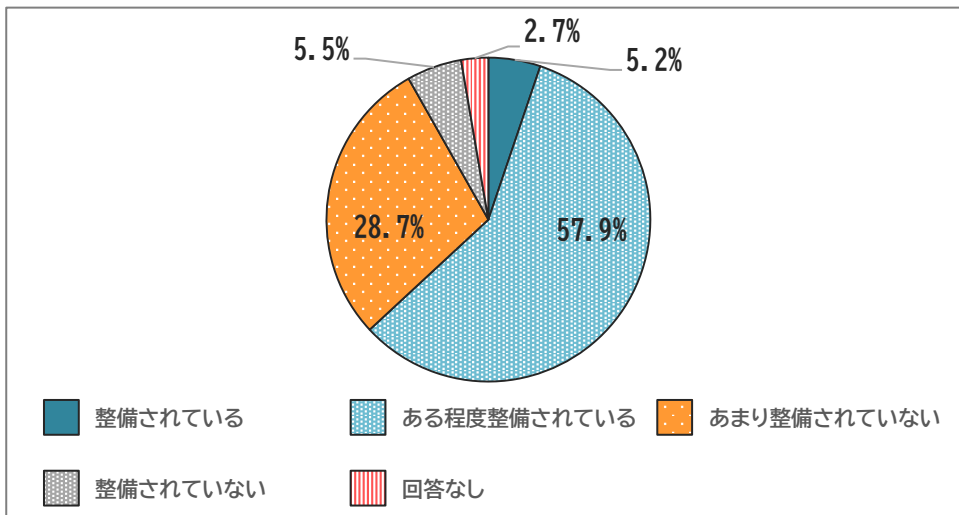
5. 快適でうるおいのあるまちづくり

- ・「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「道路の整備及び維持・修繕」が最も高く 38.5%だった。次いで、「上水道の整備及び維持・管理」が 36.2%、「下水道の整備及び維持・管理」が 34.2%だった。
- ・「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「交通体系・公共交通の充実」が最も高く 33.1%だった。次いで、「快適な市街地の整備」が 28.6%、「上水道の整備及び維持・管理」が 26.6%だった。



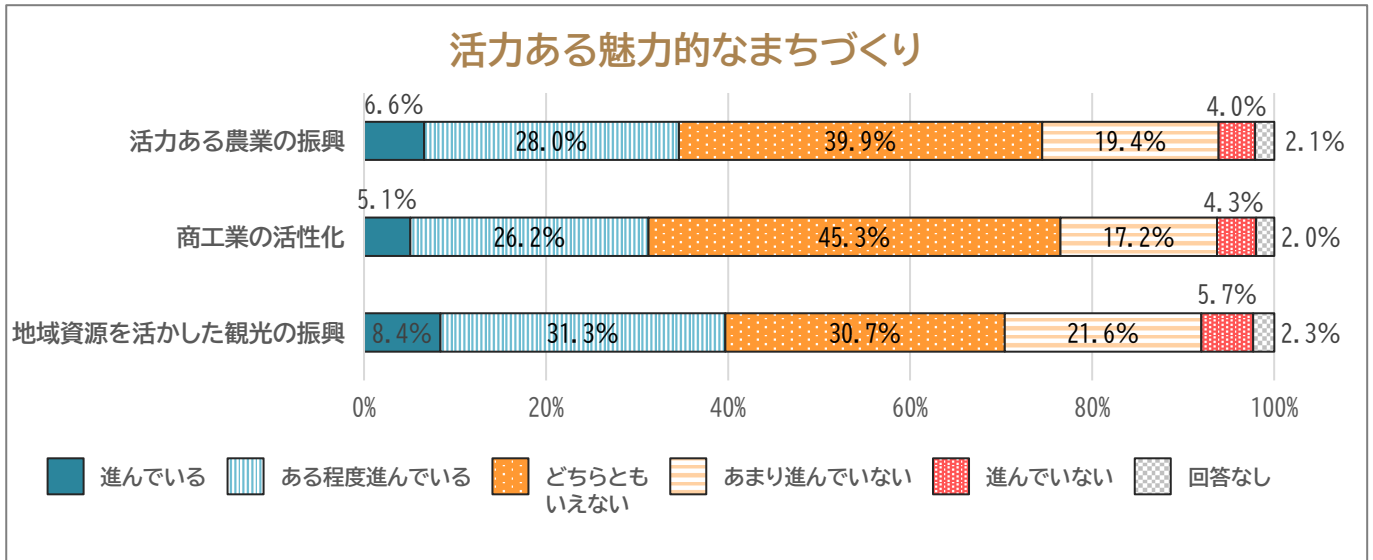
これらの取組を踏まえて、あなたは快適な都市基盤が整備されていると感じますか。(1つに○)

- ・「整備されている」と「ある程度整備されている」の合計は 63.1%だった。
- ・「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計は 34.2%だった。



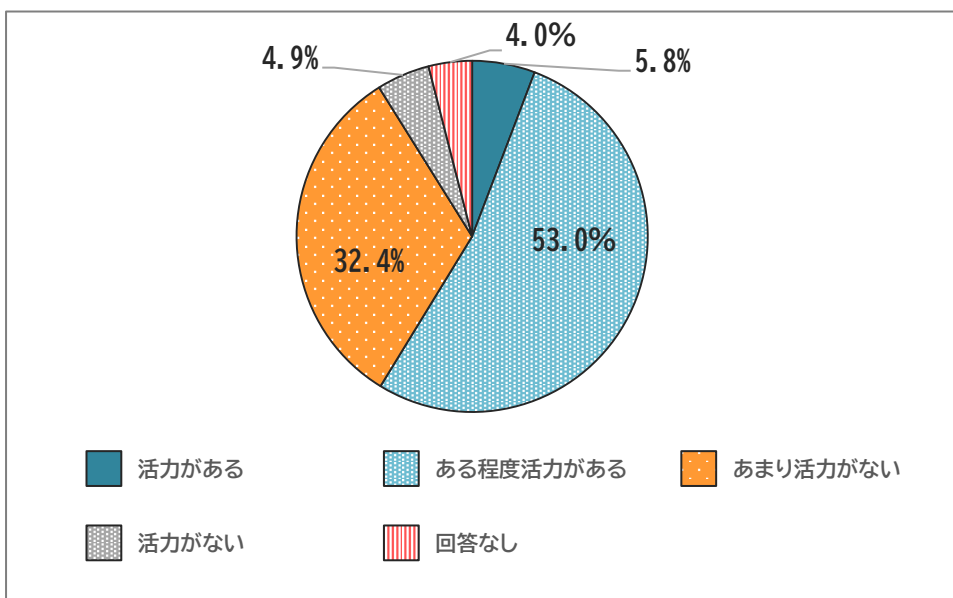
6. 活力ある魅力的なまちづくり

- ・「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「地域資源を活かした観光の振興」が最も高く39.7%だった。次いで、「活力ある農業の振興」が34.6%、「商工業の活性化」が31.3%だった。
- ・「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「地域資源を活かした観光の振興」が最も高く27.3%だった。次いで、「活力ある農業の振興」が23.4%、「商工業の活性化」が21.5%だった。



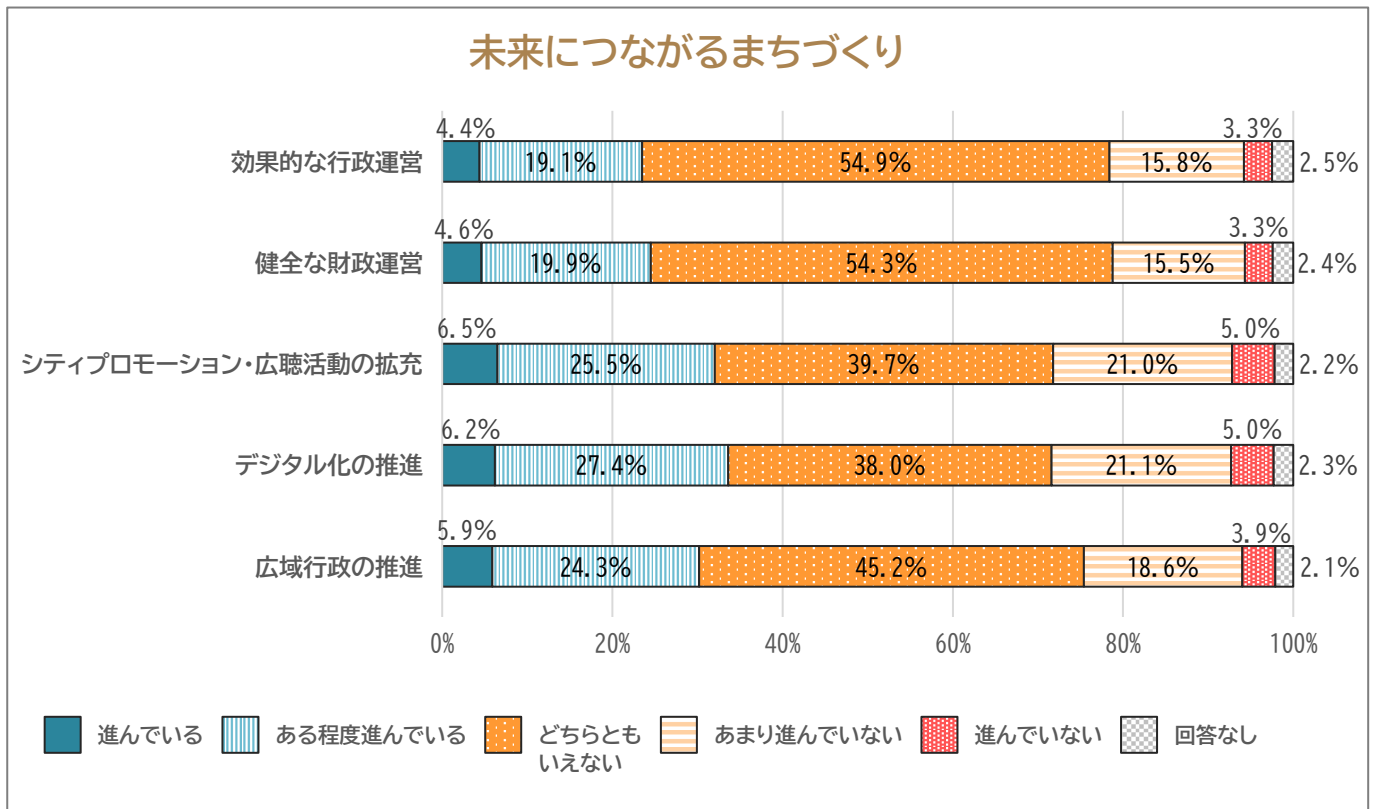
これらの取組を踏まえて、あなたは産業の賑わいにより活力があると感じますか。(1 つに○)

- ・「活力がある」と「ある程度活力がある」の合計は58.8%だった。
- ・「活力がない」と「あまり活力がない」の合計は37.3%だった。



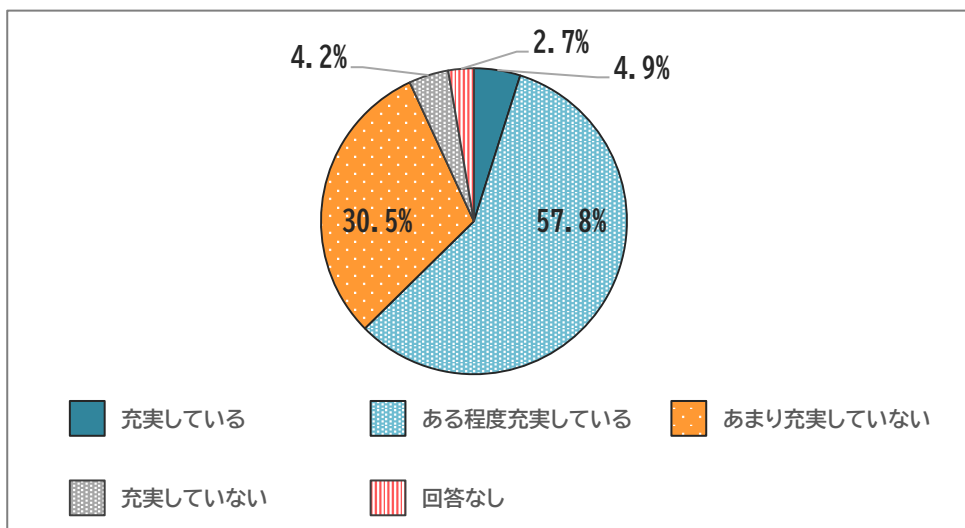
7. 未来につながるまちづくり

- ・「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計は、「デジタル化の推進」が最も高く 33.6%だった。次いで、「シティプロモーション・広聴活動の拡充」が 32.0%、「広域行政の推進」が 30.2%だった。
- ・「進んでいない」と「あまり進んでいない」の合計は、「デジタル化の推進」が最も高く 26.1%だった。次いで、「シティプロモーション・広聴活動の拡充」が 26.0%、「広域行政の推進」が 22.5%だった。



これらの取組を踏まえて、あなたは効率的な行財政運営により行政サービスが充実していると感じますか。(1 つに○)

- ・「充実している」と「ある程度充実している」の合計は 62.7%だった。
- ・「充実していない」と「あまり充実していない」の合計は 34.7%だった。



(2). 進捗状況の評価(総合比較)

【前提条件】

- ・ 42 の施策の進捗度を以下の方法で点数化し、順位を付した。
(点数計算方法)
進捗度を 1～5 点(進んでいない/1 点、あまり進んでいない/2 点、どちらともいえない/3 点、ある程度進んでいる/4 点、進んでいる/5 点)として、回答者数により加重平均で算出(少数点第 2 位まで)。
- ・ さらに 7 つの主な施策ごとに、施策に含まれる取組点数の平均点を算出した(少数点第 2 位まで)。

【7 つの章ごとの評価について】

- ・ 施策ごとの平均点数は「2.人に寄り添うまちづくり」が最も高く 3.20 点だった。次いで、「3.心を育むまちづくり」「4.人と自然を守るまちづくり」が 3.18 点だった。
- ・ 平均点数が最も低かったのは「5.快適でうるおいのあるまちづくり」で、3.05 点だった。

	平均点数	順位
1. ふれあいあふれる協働のまちづくり	3.10点	5位
2. 人に寄り添うまちづくり	3.20点	1位
3. 心を育むまちづくり	3.18点	2位
4. 人と自然を守るまちづくり	3.18点	2位
5. 快適でうるおいのあるまちづくり	3.05点	7位
6. 活力ある魅力的なまちづくり	3.14点	4位
7. 未来につながるまちづくり	3.08点	6位

【42 の施策について】

- ・ 施策ごとの点数は「子育て世帯への経済的支援」が最も高く 3.37 点だった。次いで、「安心して暮らすための健康づくり」が 3.31 点、「児童生徒の安全確保と心身の健康増進」が 3.28 点だった。
- ・ 点数が最も低かったのは「交通体系・公共交通の充実」で、2.90 点だった。
- ・ 「交通体系・公共交通の充実」の評価が最下位の 42 位と極めて低いため、バス路線の見直しやデマンド交通の導入など、移動手段の確保に力を入れる必要がある。また、「良好な住宅・住環境づくり」の評価も 41 位と低迷しているため、空き家対策や住宅取得支援など、住みやすさの向上に力を入れる必要がある。

4.2 施策の進捗評価結果

	点数	順位	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	回答なし
1. ふれあいあふれる協働のまちづくり								
町民参画の推進	3.07点	34位	4.1%	24.1%	48.3%	18.1%	3.5%	1.9%
地域力を高めるまちづくりの推進	3.23点	6位	7.4%	33.2%	36.2%	17.1%	4.3%	1.8%
多様性と包摂性を尊重する社会の実現	3.07点	36位	4.1%	23.0%	50.2%	16.8%	3.9%	2.0%
産学官連携の推進	3.04点	39位	5.5%	21.1%	48.4%	17.2%	5.5%	2.3%
2. 人に寄り添うまちづくり								
安心して暮らすための健康づくり	3.31点	2位	9.3%	38.8%	28.6%	17.0%	4.9%	1.4%
社会保障制度の適正な運営	3.20点	8位	7.9%	32.4%	35.0%	17.7%	5.2%	1.7%
地域共生・地域福祉を推進するまちづくり	3.10点	29位	5.9%	28.6%	43.2%	16.4%	4.2%	1.6%
地域に根ざした高齢者福祉の推進	3.16点	12位	4.9%	27.8%	42.5%	18.8%	4.6%	1.4%
地域共生社会実現に向けた障害者福祉の推進	3.12点	23位	4.4%	27.6%	46.1%	15.8%	4.2%	1.9%
次世代育成支援の充実	3.15点	15位	7.1%	29.9%	37.4%	17.4%	6.0%	2.2%
子育て世帯への経済的支援	3.37点	1位	15.5%	34.8%	23.9%	16.3%	6.9%	2.6%
3. 心を育むまちづくり								
質の高い学校教育の推進	3.14点	16位	4.3%	25.8%	49.1%	15.3%	2.7%	2.7%
児童生徒の安全確保と心身の健康増進	3.28点	3位	9.0%	32.9%	36.1%	16.2%	3.5%	2.4%
生涯を通じた学びの充実とその成果の活用	3.12点	24位	5.2%	25.2%	47.3%	16.2%	3.9%	2.3%
地域で育てる教育体制の充実	3.16点	13位	4.4%	30.5%	42.6%	16.3%	3.9%	2.2%
誰もが楽しむことができるスポーツの推進	3.22点	7位	7.5%	31.9%	36.9%	17.1%	4.3%	2.3%
豊かな文化の継承と文化財の活用	3.17点	11位	6.3%	26.2%	46.0%	16.0%	3.2%	2.2%
4. 人と自然を守るまちづくり								
地域防災対策の充実	3.14点	18位	6.1%	28.7%	39.6%	19.8%	3.7%	2.1%
火災・救急に迅速に対応できる体制づくりの促進	3.26点	5位	7.3%	34.6%	35.9%	17.1%	3.3%	1.9%
地域医療体制の強化	3.27点	4位	10.1%	34.0%	30.8%	19.1%	4.1%	1.8%
交通安全対策の強化	3.12点	25位	6.6%	29.5%	34.7%	22.6%	4.3%	2.4%
犯罪のないまちづくり	3.13点	22位	6.7%	30.1%	36.2%	19.1%	6.0%	1.8%
ゼロカーボンシティの推進	3.12点	26位	6.2%	26.3%	42.0%	19.5%	4.0%	2.1%
自然環境の保全	3.20点	9位	6.2%	31.0%	40.5%	16.5%	3.6%	2.3%
良好な生活環境の確保	3.18点	10位	5.7%	32.1%	37.5%	17.6%	4.3%	2.9%
5. 快適でうるおいのあるまちづくり								
計画的な土地利用	3.04点	40位	4.4%	22.6%	46.7%	18.9%	4.6%	2.8%
快適な市街地の整備	3.04点	38位	5.9%	26.4%	37.1%	23.1%	5.5%	2.1%
交通体系・公共交通の充実	2.90点	42位	5.4%	22.0%	37.7%	23.1%	10.0%	1.8%
道路の整備及び維持・修繕	3.13点	21位	5.7%	32.8%	33.7%	20.0%	5.8%	2.1%
景観形成と公園・緑地の充実	3.08点	32位	5.9%	27.1%	39.4%	19.5%	5.9%	2.3%
良好な住宅・住環境づくり	2.92点	41位	5.9%	27.1%	39.4%	19.5%	5.9%	2.3%
上水道の整備及び維持・管理	3.13点	20位	2.5%	20.2%	48.8%	19.8%	6.8%	1.9%
下水道の整備及び維持・管理	3.10点	28位	6.5%	27.7%	39.3%	18.5%	6.1%	2.0%
河川・水路の環境整備	3.13点	19位	5.7%	25.8%	46.4%	16.0%	4.1%	2.0%
6. 活力ある魅力的なまちづくり								
活力ある農業の振興	3.14点	17位	6.6%	28.0%	39.9%	19.4%	4.0%	2.1%
商工業の活性化	3.11点	27位	5.1%	26.2%	45.3%	17.2%	4.3%	2.0%
地域資源を活かした観光の振興	3.16点	14位	8.4%	31.3%	30.7%	21.6%	5.7%	2.3%
7. 未来につながるまちづくり								
効果的な行政運営	3.06点	37位	4.4%	19.1%	54.9%	15.8%	3.3%	2.5%
健全な財政運営	3.07点	35位	4.6%	19.9%	54.3%	15.5%	3.3%	2.4%
シティプロモーション・広聴活動の拡充	3.08点	33位	6.5%	25.5%	39.7%	21.0%	5.0%	2.2%
デジタル化の推進	3.09点	31位	6.2%	27.4%	38.0%	21.1%	5.0%	2.3%
広域行政の推進	3.10点	30位	5.9%	24.3%	45.2%	18.6%	3.9%	2.1%

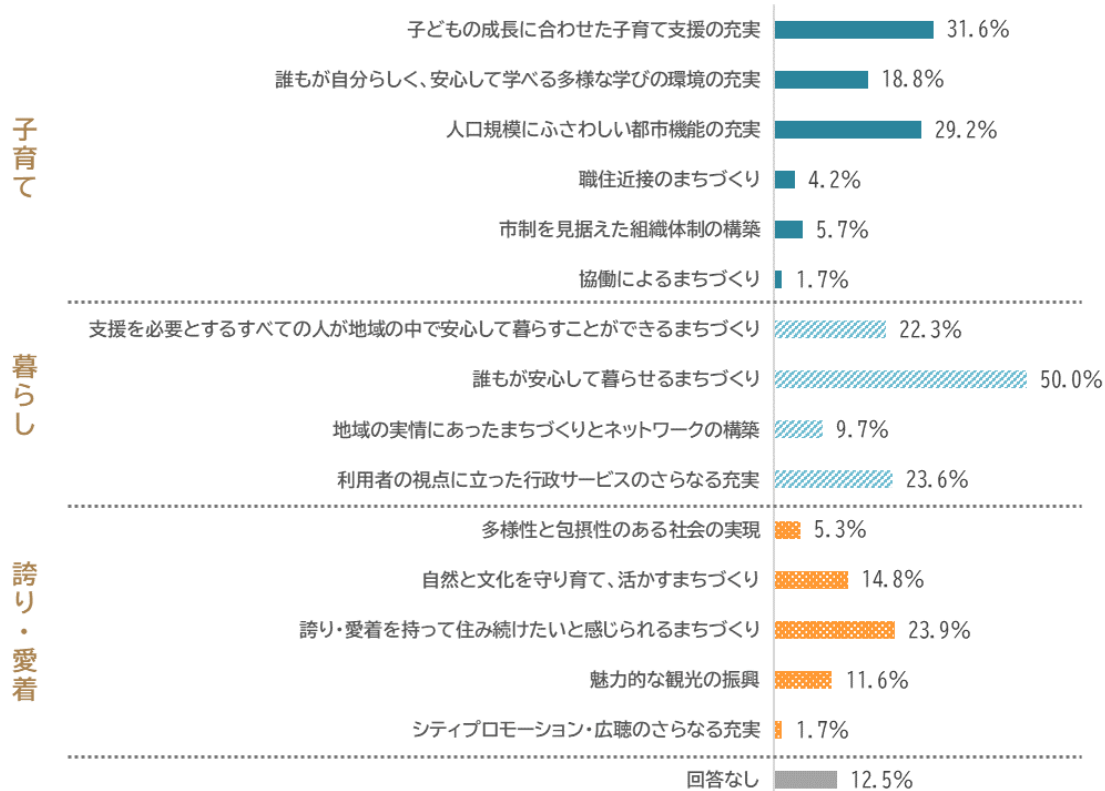
(3). 優先的に力を入れる取り組み

問 3 10年後の阿見町を見据えて、阿見町が優先的に力を入れるべきと思う取り組みを3つまで選んでください。

- ・ 優先的に力を入れる取り組みについては、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」が最も多く 50% だった。次いで、「子どもの成長に合わせた子育て支援の充実」が 31.6%、「人口規模にふさわしい都市機能の充実」が 29.2% だった。
- ・ 「シティプロモーション」や「協働」といった、市民が主体的に動く項目への関心が総じて低いため、市民参加を促すためのアプローチ方法を見直す必要がある。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
子どもの成長に合わせた子育て支援の充実	416	31.6%
誰もが自分らしく、安心して学べる多様な学びの環境の充実	247	18.8%
人口規模にふさわしい都市機能の充実	384	29.2%
職住近接のまちづくり	55	4.2%
市制を見据えた組織体制の構築	75	5.7%
協働によるまちづくり	23	1.7%
支援を必要とするすべての人が地域の中で安心して暮らすことができるまちづくり	293	22.3%
誰もが安心して暮らせるまちづくり	658	50.0%
地域の実情にあったまちづくりとネットワークの構築	127	9.7%
利用者の視点に立った行政サービスのさらなる充実	311	23.6%
多様性と包摂性のある社会の実現	70	5.3%
自然と文化を守り育て、活かすまちづくり	195	14.8%
誇り・愛着を持って住み続けたいと感じられるまちづくり	315	23.9%
魅力的な観光の振興	152	11.6%
シティプロモーション・広聴のさらなる充実	22	1.7%
回答なし	165	12.5%



(4). 住みやすさについて

問 4(1) あなたは阿見町が住みやすいと思いますか。

- ・ 阿見町の住みやすさについては、「どちらかと いうと住みやすい」が最も多く 48.4%だった。
- ・ 「住みやすい」と「どちらかというと住みやすい」を合わせた肯定的評価の合計は 80.1%、「住みにくい」と「どちらかというと住みにくい」の否定的評価の合計は 10.7%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
住みやすい	417	31.7%
どちらかというと住みやすい	637	48.4%
どちらかというと住みにくい	116	8.8%
住みにくい	25	1.9%
回答なし	121	9.2%

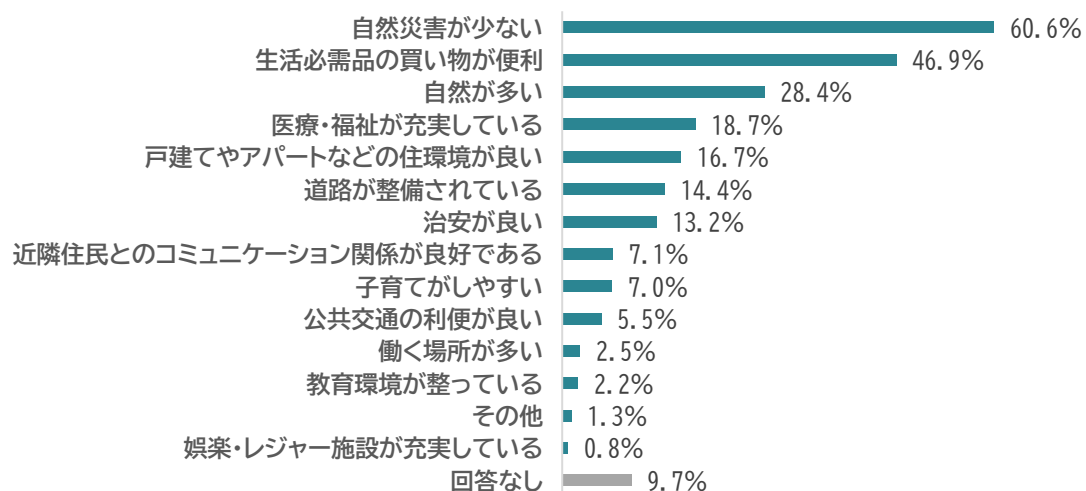
問 4(2) 阿見町の住みやすいところを教えてください。(3 つまで○)

- ・ 阿見町の住みやすいところについては、「自然災害が少ない」が最も多く 60.6%だった。次いで、「生活必需品の買い物が便利」が 46.9%、「自然が多い」が 28.4%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
自然災害が少ない	798	60.6%
生活必需品の買い物が便利	617	46.9%
自然が多い	374	28.4%
医療・福祉が充実している	246	18.7%
戸建てやアパートなどの住環境が良い	220	16.7%
道路が整備されている	190	14.4%
治安が良い	174	13.2%
近隣住民とのコミュニケーション関係が良好である	93	7.1%
子育てがしやすい	92	7.0%
公共交通の利便が良い	72	5.5%
働く場所が多い	33	2.5%
教育環境が整っている	29	2.2%
その他	17	1.3%
娯楽・レジャー施設が充実している	11	0.8%
回答なし	127	9.7%

住みやすいところ



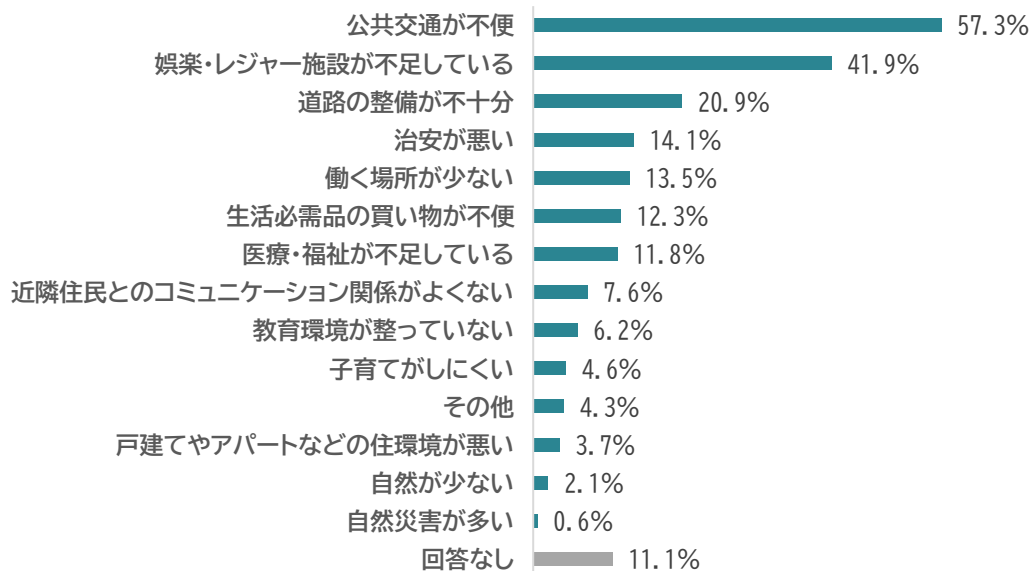
問 4(2) 阿見町の住みにくいところを教えてください。(3 つまで○)

- ・ 阿見町の住みにくいところについては、「公共交通が不便」が最も多く 57.3% だった。次いで、「娯楽・レジャー施設が不足している」が 41.9%、「道路の整備が不十分」が 20.9% だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
公共交通が不便	754	57.3%
娯楽・レジャー施設が不足している	552	41.9%
道路の整備が不十分	275	20.9%
治安が悪い	186	14.1%
働く場所が少ない	178	13.5%
生活必需品の買い物が不便	162	12.3%
医療・福祉が不足している	155	11.8%
近隣住民とのコミュニケーション関係がよくない	100	7.6%
教育環境が整っていない	82	6.2%
子育てがしにくい	61	4.6%
その他	57	4.3%
戸建てやアパートなどの住環境が悪い	49	3.7%
自然が少ない	27	2.1%
自然災害が多い	8	0.6%
回答なし	146	11.1%

住みにくいところ



問 4(3) 10年前(阿見町に住み始めて10年未満の方は住み始めた時期)と比べて、住みやすくなったと思いますか。

- ・ 10年前と比べた住みやすさについては、「住みやすくなった」が最も多く45.8%だった。次いで、「どちらともいえない」が39.7%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
住みやすくなった	603	45.8%
住みにくくなった	80	6.1%
どちらともいえない	523	39.7%
回答なし	110	8.4%

問 4(4) 阿見町には、大学や医療機関、様々な企業や研究機関があります。大学や研究機関等が身近にあることで住みやすくなっていると感じますか。

- ・ 大学や研究機関等が身近にあることによる住みやすさについては、「どちらともいえない」が最も多く55.9%だった。次いで、「住みやすくなっている」が35.3%だった。

(n=1,316)

	件数	(割合)%
住みやすくなっている	465	35.3%
住みにくくなっている	21	1.6%
どちらともいえない	735	55.9%
回答なし	95	7.2%

(5). 総合評価

【性別による評価】

- ・ 男性では「地域医療体制の強化」が最も高く(3.27 点)、「良好な住宅・住環境づくり」の充実が最も低い(2.93 点)。女性では「子育て世帯への経済的支援」が最も高く(3.44 点)、「交通体系・公共交通の充実」が最も低い(2.86 点)。
- ・ 男女ともに「子育て世帯への経済的支援」や「安心して暮らすための健康づくり」への進捗度評価が高い一方で、「交通体系・公共交通の充実」や「良好な住宅・住環境づくり」への評価が低い点は共通して。

【年齢別による評価】

- ・ 「子育て世帯への経済的支援」は、50 歳代以上の全世代および 10 歳代において 1 位の評価を得ている。しかし、実際に子育ての当事者世代が含まれると思われる 20 歳代～40 歳代では、順位が 4 位～8 位と相対的に低く、点数も 3.05 点～3.16 点にとどまっている。支援を受ける側(現役世代)と見守る側(シニア世代)の間で評価に差が生じているといえる。
- ・ 10 歳代では「デジタル化の推進」が 1 位(「地域医療体制の強化」「デジタル化の推進」と同率)と高く評価されている点が特徴的である。一方で、「交通体系・公共交通の充実」は 30 歳代・50 歳代～70 歳代で最下位(42 位)となっており、幅広い世代において移動手段の利便性に対する課題認識が強いことがうかがえる。

【居住地区別による評価】

- ・ 阿見第二小学校区と阿見第一小学校区を除く 5 つの地区で「子育て世帯への経済的支援」が単独 1 位の評価を得ている。阿見第二小学校区では「地域力を高めるまちづくりの推進」が 1 位(3.35 点)となり、君原小学校区では「児童生徒の安全確保と心身の健康増進」が 2 位(3.55 点)と非常に高く評価されるなど、地区ごとの優先度や特色が表れている。
- ・ 全地区共通の傾向として、「子育て世帯への経済的支援」や「安心して暮らすための健康づくり」への評価が高い一方で、「交通体系・公共交通の充実」や「良好な住宅・住環境づくり」、「計画的な土地利用」への評価はいずれの地区でも 30 位～40 位台と低迷しており、ハード面の整備に対する課題認識は地域全体で共通しているといえる。

【住みやすさ別による評価】

- ・ 施策ごとの点数を住みやすさ(問 4(1))別で見ると、全体的な傾向として、住みやすさが高い層ほど各施策の点数も高く、満足度が低い層ほど点数が低いという正の相関が見られる。「住みやすい」と感じている層は、ほとんどの項目で 3.0 点以上の評価をしているのに対し、「住みにくい」層では 3.0 点を超える項目はわずか 6 項目にとどまっている。